

2025年度（第14期）

事業計画書

自 2025年4月1日

至 2026年3月31日

東京都千代田区神田錦町3 - 20 錦町トラッドスクエア6階

公益財団法人 読売日本交響楽団

2025年度事業計画

2025年3月13日

公益財団法人 読売日本交響楽団

(1)基本理念と運営方針

読売日本交響楽団は、クラシック音楽の振興・普及に尽力し、心豊かな人と幸福な社会の形成に貢献することを基本理念とする。その上に立って多様な客演陣とプログラムを高い水準の演奏を通じて世に提供し、多くの人々に愛されるオーケストラ、そして社会から必要とされる文化団体であり続けたい。芸術創造の最高峰を目指すとともに、クラシックを初めて聴く若者や子供たちとも、音楽の素晴らしさを共に感じ、共有できるよう努める。

オーケストラ事業の文化的価値を維持しつつ、それを支える人的および財務の基盤を強化して安定した運営に努める。

(2)2025年度の演奏活動

指揮者の布陣と演目

常任指揮者のセバスティアン・ヴァイグレは、読響との協業の成果が内外から高く評価されている。25年度は常任就任から7年目となる。25年度のプログラムでは、26年1月の定期演奏会で予定するプフィツナーのカンタータ「ドイツ精神について」（日本初演）を演目の目玉に据える。ヴァイグレは23年10月の定期演奏会でアイスラーの「ドイツ交響曲」を日本初演して注目され、同公演は三菱 UFJ 信託芸術文化財団の「音楽賞奨励賞」を受賞した。ヴァイグレは、歴史的な経緯で演奏機会に恵まれない「埋もれた作品」を世に問うて評価を待つ取り組みを進めており、プフィツナー作品の演奏は、その新たな一歩となる。

指揮者としての手腕が高く評価されている首席客演指揮者のユライ・ヴァルチュハは8月の3公演に登場し、マーラーの大作「大地の歌」などを振る。

指揮者／クリエイティブ・パートナーの鈴木優人が指揮する26年3月の定期演奏会では、バッハ（メンデルスゾーン編）「マタイ受難曲」を演奏する。合唱を伴って演奏に2時間を要する大作で、バロック音楽への造詣が深い鈴木が本領を発揮することが期待される。

日系米国人3世の指揮者ケント・ナガノ氏を25年9月の定期演奏会と横浜マチネーシリーズの指揮台に招く。読響との初の共演となることから、巷間話題を集めている。マーラーの交響曲第7番「夜の歌」とシューベルトの交響曲第8番「グレート」の演奏を通じて新たな読響サウンドが生まれることを期待したい。

客演指揮者やソリストには、ベテランから実力派の若手まで、幅広い出身地・国籍・人種から多様性を意識して起用していく。

社会貢献活動の充実

オーケストラに触れる機会の少ない地方都市に音楽を届けることの価値はいつの時代も変わらず、アンサンブルの機動的な展開を通じてサロン（地方都市での公開演奏）、ハートフル（医療施設向け）、フレンドシップ（小中学校向け）の各コンサート活動に取り組む。

(3)持続可能な運営への改革

計画的な収支管理と財務基盤の強化

公演日の2,3年前から着手するコンサートの制作段階において収支のバランスに十分留意する「運営構造改革」を23年度から実施しており、この方針を25年度も厳守する。

入場券料の引き上げ

諸物価上昇等による財団の費用の増加を補うべく、25年4月から入場券料を一律で10%引き上げる。主催公演のS席の価格は現行の8,000円（税込み）を8,800円（同）とし、規模の大きな公演は11,000円（現行は10,000円）とする。

事務局の人材確保

現在の事務局は極めて少人数で運営しており、後継人材が不足している。適材の確保を意識的に行っていく。若手には、さまざまな職場を経験させるなどして視野と業務のレパートリーを広げさせたい。

(4)日本テレビ・読売テレビとの連携

読響の演奏は日本テレビの地上波とBS日テレの「粗品と絶品クラシック」で放映しており、25年度は公開収録を1回、同時録音画を9回予定している。過去の放送はインターネット有料動画配信サービス「hulu」で直近の放送回に加えて過去のアーカイブ映像を、無料配信動画「TVer」ではオンエア終了から1か月の見逃し配信を見ることが出来る。読売テレビでも同時録音画を1回予定している。読響は、引き続きコンテンツの拡充に協力していく。

2025年度事業計画一覧

I. 自主公演（国内） 57回

1. 定期演奏会	10回
2. 名曲シリーズ	10回
3. 土曜マチネーシリーズ	10回
4. 日曜マチネーシリーズ	10回
5. 横浜マチネーシリーズ	8回
6. 大阪定期演奏会	3回
7. 読響アンサンブル・シリーズ	4回
8. 特別演奏会	2回

(特別演奏会内訳)

第九公演 2回

II. 依頼公演 47回

1. 首都圏公演	35回
2. 地方公演	11回
3. テレビ出演	1回

I + II 合計 105回
